令和５年度第２回神奈川県がん協議会　議事録

日　　時　令和６年１月 30 日（火）11 時 00 分～13 時 00 分
開　　催　オンライン
出席委員　片山　佳代子（群馬大学情報学部情報学科 准教授）
助友　裕子（日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科　教授）
佐々木　治一郎（北里大学医学部新世紀開発センター横断的医療領域開発部門
臨床腫瘍学　専門医）
長谷川　一男（神奈川県がん患者団体連合会　理事）
田川　尚登（NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト　代表理事）
渡邊　知雄（公益社団法人神奈川県医師会　理事）
蛭田　昌（神奈川県ＰＴＡ協議会　執行役員）
金子　雄志（神奈川県中学校体育連盟　副会長）
水谷　めぐみ（神奈川県学校保健連合会養護教諭部会　部会長）
下山田　義行（神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課　課長）
代理出席　加藤　義雅（神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課　主幹）
磯貝　靖子（神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課　課長）
その他参加者
白澤　薫（神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課　副主幹）

（保健体育課長）
皆様、こんにちは。県教育委員会保健体育課長の磯貝でございます。
本日はお忙しい中、令和５年度　第２回神奈川県がん教育協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
県教育委員会では、今年度、外部講師を活用したがん教育授業の実施率向上を目指し、公開授業実施校を大幅に増やすことができました。また、学校教職員向け研修では、外部講師を活用したがん教育授業の動画を視聴できるよう工夫し、外部講師活用の意義や、必要性についての普及を図りました。
研修の効果や実施形態について、受講者から高い評価をいただいております。
さらに、昨年度に引き続き医療関係者向けの研修を、県がん・疾病対策課、民間製薬会社と連携しながら実施し、新規外部講師の発掘に取り組んでいます。
本日は、神奈川県のがん教育について、本年度の取組み結果を、皆様へご報告させていただきますとともに、皆様からの忌憚のないご意見を頂き、今後の学校における「がん教育」に活かしていきたいと存じます。
今後とも、神奈川県におけるがん教育の推進に向けまして、専門的な見地からのご意見

を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
（事務局）
それでは、事前に電子データにて送付させていただいている資料を確認させていただきます。片山座長から御挨拶お願いします。
（片山座長）
県立がんセンターがん教育ユニット、群馬大学に所属している片山と申します。今年度、神奈川県では外部講師を活用したがん教育授業の実施校数を大幅に増やすことができました。また、外部講師向け研修が充実したと考えております。本日は、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
（事務局）
それでは、座長から話がありましたので、この先の進行は、事務局が務めさせていただきます。議題に入る前に、県医師会では役員改選が行われたため、渡邊委員からご挨拶をいただければと思います。
（渡邊委員）
県医師会で理事をしている渡邊と申します。よろしくお願いいたします。
（事務局）
それでは議題に入ります。
（１）報告事項
ア　令和５年度神奈川県がん教育の取組について
事務局より説明をお願いします。
（事務局）
資料１、資料２「文部科学省がん教育等外部講師連携支援事業報告」についてです。がん教育等外部講師連携支援事業の事業結果説明書と成果報告書です。まだ公開授業が終了しておりませんので、未定稿となっております。
今年度の主な成果として、神奈川県外部講師を活用したがん教育公開授業 30 校実施（小学校４校、中学校 17 校、高等学校９校）、がん教育指導者研修講座の実施（主に学校教職員向け）、がん教育指導者育成セミナーの実施（主に医療関係者向け）、県がん疾病対策課、民間製薬会社と共催しました。
資料７の文科省資料にもありますが、委員の皆様や外部講師の皆様のご尽力により、神奈川県の令和４年度外部講師活用率は４．７％（75 校）となっており、令和３年度の１．４％（10 校）から大きな伸びとなりました。ありがとうございました。
今年度もかなり積極的に各事業に取り組めたと考えております。この後、各事業の詳細については御説明させていただきます。
（事務局）
本件について、御質問・御意見はございますか。
（特になし）それでは、次に進ませていただきます。

次に、「がん教育研修講座」について事務局より説明をお願いします。

（事務局）

資料３－１をご覧ください。教員向けのがん教育研修講座はオンラインにて７月中旬から８月末に実施しました。

今年度、工夫した点としては昨年度のアンケート結果を踏まえ、中学校と高等学校の実際の授業動画を視聴できるようにし、配慮事項や小児がんについて知りたいという意見から田川先生に御講演いただきました。

資料３－２をご覧ください。アンケート結果となっております。

内容や実施時期について高い評価でした。意見としては、普及は難しいといったネガティブな自由記述が減っており、既存の取組を継続してほしいや、新たな取組を期待しているといった内容が多かったです。

（事務局）

本件について、ご質問・ご意見はございますか。

（田川委員）

小学生は同世代の子供ホスピスの話を熱心に聞いている姿がみられた。高校生は、また違う反応がある。小児がんの話を聞いていただく機会を増やしたい。

（助友委員）

教職員向け研修は悉皆だったが、アンケートは必須だったか確認したい。

（事務局）

若干名アンケート登録がうまくいかない場合があったが、必須となっている。

（助友委員）

研修に保健体育科の先生が多く参加されていてとても良いと思う。

（事務局）

次に、「外部講師を活用した研究授業実施要項」について事務局より説明をお願いします。

（事務局）

資料４となります。今年度は研究授業の実施校数を大幅に増やすという目標を持って取り組みました。結果として 30 校で実施することができました。また、県がん患者団体連合会の皆様にご尽力いただき、30 校の中で複数本の授業を実施していただきました。

また、県がん連の皆様には 30 校以外の学校でも積極的に実施いただいておりますので、令和５年度の全県での外部講師活用率は、令和４年度を大きく上回ると考えております。

新たな教科での試みとしては、県立津久井高等学校の福祉科の授業で看護師を外部講師として実施しました。また、研究授業のアンケートになりますが、今年度は２月上旬まで実施していた関係でとりまとめ中となっております。次年度の協議会にてご報告させていただきます。

（事務局）

本件について、ご質問・ご意見はございますか。

（長谷川委員）
23 校程度を県がん患者団体連合会で実施した。授業本数だと計 74 本、多い場合には、同一校で９展開ということもあった。現在、県がん患者団体連合会では外部講師を 17 名養成し対応した。
（片山教授）
文部科学省では、外部講師活用率で評価しているが、引き続き授業の質も向上させていきたい。また、神奈川県がん患者団体連合会は、がん治療学会等での患者自身が様々な課題に取り組み、研究成果発表をしたことは、全国でも高く評価されている。
（事務局）
次に「医療関係者向けがん教育研修」についてがん疾病対策課より説明をお願いします。
（白澤副主幹）
資料５をご覧ください。外部講師セミナーは、今年２回目で年２回開催している。昨年度から、24 名追加して 61 名の登録となった。
今年度、県立津久井高校の福祉科の公開授業を見学させていただいた。外部講師は看護師でとても良い内容だった。来年度も医師だけではなく、看護師をはじめ様々な職種の方にお力添えいただき実施していきたい。
（事務局）
本件について、ご質問・ご意見はございますか。
（佐々木委員）
医療者本人へのがん教育の理解は深まってきている。しかし、実際に外部講師として学校で授業をしていただくには、所属の理解と協力が必要だと考えている。そのためには、今後、所属団体や病院に対してのセミナーを実施していく必要がある。
（事務局）
次に「外部講師リスト」について、がん疾病対策課より説明をお願いします。
（白澤副主幹）
医療関係者向け研修において、がん教育授業で教える内容について、得意分野を確認しているので派遣調整をする際に活用していきたい。先ほど佐々木委員から話があったが、研修についても派遣元の病院等の理解が必要と考えている。
（事務局）
本件について、御質問・御意見はございますか。
（片山座長）
61 名の医療関係者が外部講師としてリスト化されているのはがん教育授業の推進に繋がる。診療の関係で、外部講師に興味はあるが協力することが難しいといった声もある。現在も対応していると思うが、本人に加え所属長に外部講師の派遣依頼文を発出していただくと協力しやすい。

（事務局）
次に「令和４年度がん教育実施状況調査」について、事務局より説明をお願いします。
（事務局）
資料７をご覧ください。文科省の資料になります。令和４年度の県全体の外部講師活用率は４．２％（75 校）、内訳としては、小学校１．３％（12 校）、中学校８．３％（46 校）、高等学校５．８％（17 校）となっています。令和３年度は、小学校０．３％（１校）、中学校２．９％（６校）、高等学校１．８％（３校）でした。
次年度も、高等学校はもちろん、引き続き各学校や教育事務所及び市町村担当者への働き掛けを行い、小中学校での実施を推進していきたいと思います。
（事務局）
本件について、ご質問・ご意見はございますか。
（佐々木委員）
この数値は正確なのか。
（事務局）
他都道府県では、薬物乱用教室等でがんについて触れた程度でも計上しているという話を聞いたことがある。正確と断言はできない。
（助友委員）
神奈川県としてはどのくらいの外部講師実施率を目指すのか。数値目標があるのかお聞きしたい。
（事務局）
現段階では具体的な数値は考えておらず、１校でも多く外部講師を活用していただくために取り組んでいる。数値目標としては、授業の質といった部分で、児童生徒向けアンケートでの理解度は参考にしている。授業の質を保ちながら実施校数を増加させていきたい。助友委員のご意見のとおりで、そろそろ普及から推進の段階に入ったと捉えている。今後、具体的な数値についても検討していきたい。
（助友委員）
外部講師活用率の都道府県別数値をみると、バラつきが大きく各地域の意向が強いと考えている。国ががん教育に係る事業をいつまで続けるのかわからない状況もある。拠点病院だけではなく、今後、身近な地域医療がどのようにがん教育に関わっていくのか。学校医の立場からどうするのか、ご意見を伺いたい。
（渡邊委員）
県医師会では経理関係を担当していた。以前から、がん教育のような健康指導について考えていかなければならないという話は出ていた。予算関係の問題もある。今回、がん教育授業について様々な話を伺えたことは良かった。
（事務局）
それでは、協議事項に移ります。「令和６年度神奈川県がん教育の取組」について事務局

より説明をお願いします。
（事務局）
資料８の事業計画をご覧ください。
次年度の計画としては、まず、持続的な研修体制の確立を考えております。特に、外部講師研修の医療関係者向けとがん経験者向けについては、県がん疾病対策課や民間企業との連携をしながら模索していければと思います。
また、文科省の予算がつけば、外部講師を活用したがん教育公開授業を 40 校に増やしたいと考えております。また、県がん疾病対策課で予算がついたという話がありましたので、40 校プラス予算がある限り実施できればと思います。
実施校数が増えてきましたので、各学校には県がん教育ガイドラインを活用していただき、事前打合せから実施まで自立した取組をしていただけるようサポートしていきます。
（事務局）
本件について、ご質問・ご意見はございますか。
（片山座長）
次年度の県予算はどうなっているか。
（下山田委員）
次年度予算は調整中である。先ほど佐々木委員からご意見をいただいた医療関係者向け研修については検討していきたい。
（佐々木委員）
がん経験者向け研修では、県がん患者団体連合会が既に講師となった方にフォローアップ研修を実施している。医療関係者向け研修でもその辺りを検討していってほしい。
（下山田委員）
承知した。
（助友委員）
がん教育授業を実施する際に、児童生徒や保護者への配慮等について、学校管理職の委員である鈴木委員やＰＴＡの蛭田委員からご意見をいただきたい。
（鈴木委員）
がん教育授業の際に小児がんの子どもが在籍していたが、保護者を含め丁寧な説明により協力的な雰囲気で実施ができた。授業を実施する前には事前に周知することや情報収集を行い配慮することが必要だと考えている。
（蛭田委員）
授業を実施する際には、やはり事前の説明が必要だと思う。
（助友委員）
がん患者が特別視されるのは時代にあっていない。現在は、多様性の時代で共生社会の実現を目指す必要がある。
（片山座長）

以上で本日の内容は皆様の御協力により、すべて実施することができました。ありがとうございました。

神奈川県では、外部講師活用率だけにこだわらず、地域の実情に即した授業も挑戦していきたい。がんだけを教えるのではなく、がんを教える過程で根底にあるいのちの大切さや生きる力を育んでいきたい。委員の皆様には今後もお力添えをいただきたい。